

第52回大気環境学会併設 全国環境研協議会特別集会の概要

奈良県保健環境研究センター

第52回大気環境学会併設全国環境研協議会特別集会在、平成23年9月15日(木)に長崎大学文教キャンパスにおいて、大気環境学会と全国環境研協議会との共催で開催された(参加者約70名)。「越境汚染と地方環境研究所～役割と今後の展望～」をテーマに、4題の講演があった。

愛媛大学の若松伸司氏は、「越境大気汚染と地方環境研究所の役割」と題して、今回の開催地である九州地域を中心にした越境大気汚染の問題から全国各地域の現状および、全国におよぶ越境大気汚染に対する地方環境研究所の役割について報告した。

産業技術総合研究所の兼保直樹氏は、「離島におけるエアロゾル観測と都市大気汚染」と題して、長崎県福江島と福岡県福岡市における大気エアロゾル、とくにPM_{2.5}の組成や重金属類および多環芳香族炭化水素類の状況について報告した。

福岡県保健環境研究所の植崎幸範氏は、「北部九州域の大気環境に拡がる広域汚染に関する研究」と題して、オゾン濃度の空間分布や地域別変動および他の大気汚染物質の濃度変動を踏まえ北部九州域におけるオゾン高濃度の特徴とその成因を解析し報告した。

京都府保健環境研究所の日置正氏は、「関西地域で観測した長距離輸送エアロゾルの無機元素から見た化学像」と題して、関西地域における粒径別元素比(Pb/Al, V/Mn)を用い人為起源粒子の長距離輸送や発生源推定に関して報告した。

各講演とも質疑応答が活発に行われ、盛会の中に終了した。

プログラム

・講演

(座長：財日本環境衛生センター西日本支局
岩本 真二)

- (1) 越境大気汚染と地方環境研究所の役割
愛媛大学 若松 伸司
- (2) 離島におけるエアロゾル観測と都市大気汚染
産業技術総合研究所 兼保 直樹
- (3) 北部九州域の大気環境に拡がる広域汚染に関する研究(広域オキシダント汚染と成層圏起源オゾンの寄与解析)
福岡県保健環境研究所 植崎 幸範
- (4) 関西地域で観測した長距離輸送エアロゾルの無機元素から見た化学像
京都府保健環境研究所 日置 正